九話

むがし、じっちゃどばっぱとえたけどよな。したば、じっちゃ、庭こはいでらばしゃ、豆こ一つ拾ったんだどよ。したば、

「この豆こ、ねずみ穴さ落どしてやるがな」

って、ねずみ穴さ落どして、三日ばかりしたば、ねずみ、穴こがら出はって、じっちゃどこ迎いにきたものだっけどよ。

「じっちゃ、じっちゃ、せんだってはごつそうさんでした」

って礼してがら、

「俺らの家さ、一回遊びにきてけろ」

ど言うど。

「なんして俺あ、ねずみの穴こさ、はいってえがれるもんだってエ」

ったば、

「まんず、まなぐつぶって、俺の尾っぱさつかまれ」

ったど。まなぐつむって、

「はい」

ったば、

「俺がええっていうまで、まなぐあげねでけろな」

と言ったば、

「はい」

ったど。するっと穴さはっていったば、

「はい、まなぐあげでええど」

というがら、まなぐあげだば、ねずみの穴の中であったど。座敷こになってあったどよ。したばこんだ。ねずめたち、モチつきしたもんだけど。

「百なっても、二百なっても、猫の声聞きたぐねエ」

ど、一生懸命にモチついだど。小豆モチから、まめのこモチから、さまざまなモチ、ごつそうしてけでよ。いっぱいごつそうになったば、

「これでえし、まずごつそうさま」

ったば、

「ばっぱにも、みやげ持っていってけろ」

って、まなぐつむっていだば、まだ明りどころさ出はってきたもんだけどよ。こんだ、ばっぱどこさ、

「おみやげもらってきたじゃ」

って、モチ出してひろげで食ってらどこ、こんだ、隣のじっちゃまだ、ふし穴こから見でらもんだけど。

「隣の家でまだ、モチ食べてらじゃ。ええごと聞いだ、俺もやってみるべエ」

ど、家さ行って、拾ってきたふりして豆持ってきて、穴さ押し込めでやったけど。したばねずみ、親切にやってけだなと言って、迎かいに来てあったけど。

「じっちゃ、じっちゃ、まなぐつむってけれ。俺の家さ行ぐべしゃ」

ったど。隣のじっちゃもよ、まなぐつむったけどよ。したば、するするとはっていったと思ったば、

「まなぐあげてけれ」

って、ねずみの家さ来たけどよ。ねずみたちいっぱいいいで、
「百なっても、二百なっても、猫の声聞きたぐねエ」
ど、モチついでいるど。じっちゃこんだ、
「あッ、このねずみたちだな。俺、ニヤオーンとしたら、ねずみいなぐなっぺがら、モチもなにもかも、みんな持ってえぐにえええ」
ど、よぐばったどしゃ。こんだ、猫のまねして、
「ニヤオーン」
ったば、
「猫来たア、たいへんだア」
って、真っ暗になって、ねずみたちいっせいに逃げてしまったど。もの持ってくるごどばげだ、真っ暗になって、やっと逃げてきたもんだけど、
これで終わり。